

TMA 近未来医療会議・・・東京都医師会

■ 東京都医師会が設置した会議・・・TMA 近未来医療会議

東京都医師会がコロナ時代における医療提供体制の抜本的な改革と、社会保障の理想像に関して幅広く検討するための会議です。

去年発行されており、発行からそろそろ一年。
先日の診療報酬改定の東京都での勉強会のときに、配られておりました。
手に入れて、じっくりと読んでみました。

■ すべての問題点が網羅されてる

始めて起こったコロナに関して、現場ではどんなトラブルが起きて、
どんな対応を求められているのか。
国と、厚労省、そして開業医がどう対応すべきか。
20人の医師が提言しています。

当然、監修は、東京都医師会長の尾崎さん。

■ 内容をかいつまんで・・・

国は、発熱外来を医師がやれというけれど、診療科目の問題もあるし、全員が
対応できるわけではないこと。
ビル診の状況的に、感染症に対しては、対応が難しい状況があること。

看護師さんたちが、対応を嫌がること。
下手すれば、退職を余儀なくされれば、民間のクリニックが立ち行かない事。

セキララに、書かれております。
内容をじっくりと読めば読むほど。。。コロナで医師は、儲かったんじゃないか？と
責められることへの、返事のような本だと思います。

俺たちだって、コロナと戦ったんだ。という意味で。大変だったんだと。



■ 本音の本音

クライアント様 限定情報

■ 小さい声で

本の内容は、20人の先生方が、過不足なく、問題点を書いています。
過不足なく。

でも…どうやって対応するのが良いのか。

その部分は、全く書かれてない。



え…どうやって対応したとか、具体的な
ことが書いてないって。どういう事？

…問題点とか、困ったことだけが書かれてるんだ…

正しくいえば、かかれております。

最新のDXなどの活用を以前から取り組んでいた施設には、アドバンテージ
があったと思います。

想定外のコロナ禍に対応できたクリニックと、そうでないクリニックの間に今後は
格差が出来ていくでしょう。



これ、意味深だよね。

取り組んでるところは、アドバンテージがあった。ってさ。

翻訳すると・・・

できるところは、対応できたけど。

対応できないところは、対応できなかった。

今後は、対応能力の違いが、クリニックの格差になる。

ってことだけを、言ってるんだよね。

オイオイ。評論家されても困るのよ。

どういう対応をしたのか？っていうところを、表現しないんだね。

■ ノウハウだもんね・・・対応方法は

どういう風に、対応したのか。

スタッフへの説得はどういう風にしたのか。

などなど。。。ノウハウですもん。貴重ですよ。それ。



クライアント様 限定情報

クライアント様 限定情報

■ わかってる人は・・・相当前から、準備してるんです。

〔表面〕

自分は、運がよかっただけだよ。スタッフみんなのお陰だよ。ありがとう。

〔水面下〕

努力したよ。誰も教えてくれないもん。時間もかけたし、お金もかけたよ。勉強したもん。俺ががんばった！

〔もう一段の水面下〕

どうせ、俺が考えに考えたことでも、そんな事！って、いうだけだろ。ちょっとの違いが、大きな違いなんだけど・・・教えたところでケチ付けられるし。

考えて、やってみた事って、財産なんだよ。やってみればわかるさ。金はらっても、コンサルは怪しいし。どれだけ、本当の情報が大事かは、やってみてわかるんだよ。

どうやってやるのか、わからないし。医師会も教えてくれないし。なんで、あいつは、知ってるんだ？



■ 税理士会でも、言われてました(同じ話)

マイナンバーカードが、できたとき。
税理士会で、質問してた人がいました。

どうすればいいのか？
税理士会で、統一見解をだしてくれ！

その時、偉い人が優しく言いました。

先生。。。今年の夏休み、軽井沢で、お休みしながら、法律を全部読んで
みてください。税理士会で対応できる話じゃないんですよ。

と、言っていました。

(やっぱりなあ~と思って聞いてました。うちは、個人情報保護に詳しい弁護士
さんをお願いして、従業員さんとの間の文書をつくってもらいました。たしか
60万以上払ったと思います。クライアント様のところに、出しているのは、
その時作った契約書です。)

クライアント様
限定情報